

CREATIVE CAFÉ NAGOYA

LECTURE + DIALOGUE Vol.8



Photography: Matteo Nobili

ユネスコ・デザイン都市なごや × 名古屋都市センター

イタリア・トリノの 「地区の家」に学ぶ コミュニティ・ハブの エッセンス

Essence of community-hub learned from
"Casa del Quartiere/district house" of Turin, Italy

2019.2.16 sat | 入場無料・要申込み

トーク 13:30-15:30 (開場 13:00)

ワークショップ 15:50-17:30 (希望者のみ)

会場 | 名古屋都市センター 11階ホール

主催 ユネスコ・デザイン都市なごや推進事業実行委員会
公益財団法人名古屋まちづくり公社名古屋都市センター
名古屋大学大学院環境学研究科小松研究室
後援 ユネスコ・デザイン都市トリノ (トリノ市、イタリア)

CREATIVE CAFÉ NAGOYA

ユネスコ・デザイン都市なごやが開催するレクチャー+ダイアログのイベント。

毎回国内外からゲストを迎え、まちづくり、デザイン、建築、アート、

フード、サイエンス、モビリティやアニメーションなど、

多義にわたるテーマでゲストや参加者の皆さんと語り合うカフェプログラムです。

このプログラムでは、大学やNPO団体、企業など他の団体やイベントとも連携し、
広く創造都市や創造産業について考えていきます。

*今回のクリエイティブ・カフェは、「まちづくりセミナー」との共同開催です。

Casa del Quartiere



Casa del Quartiere



Photography: Takao Ozasa (upper right), Hisashi Komatsu

変わり続ける都市、地区のためのアイデアの実験室。

「地区の家」はトリノ市民のための

イベントやミーティング、学びや遊びの活動を行う

「コミュニティ・ハブ」です。

名古屋市の姉妹都市、そして名古屋市と同じユネスコ・デザイン都市のトリノ市（イタリア）といえば、フィアットの企業城下町、スローフードの発祥地ピエモンテ州、2006年冬季オリンピックなどが思い浮かびます。しかし都市の高齢化や産業の衰退に伴う人口減少、経済格差、移民の流入など、地域社会は日本同様、多くの課題を抱えています。そのトリノ市の玄関口であるボルタ・ヌーヴァ駅近くのサンサルバリオ地区。約20年前は衰退した地区でしたが、今では夜も安心して歩け、魅力的なお店が並びます。今回は、20年以上前からこの地区の再生のために関係者と粘り強い対話を続け、その成果の一つとして、2010年に公衆浴場を改修し、公民学連携で「地区の家サンサルバリオ」というコミュニティ・ハブ（地域拠点）を開設し、さらにそのノウハウを活かして2014年には「ヴィア・バルテア」という民設民営のコミュニティ・ハブを開設したメンバーの一人であるアンドレア・ボッコ氏を迎え、再生まちづくりの核となるコミュニティ・ハブのエッセンスをお話いただきます。トークの後には、自分のまちならどんなコミュニティ・ハブがあってほしいか、つくりたいかを、参加者（希望者のみ）によるワークショップ形式で語り合います。

CREATIVE CAFÉ NAGOYA LECTURE + DIALOGUE Vol.8

イタリア・トリノの「地区の家」に学ぶ コミュニティ・ハブのエッセンス

2019年2月16日（土） | トーク 13:30-15:30（開場13:00）
| ワークショップ 15:50-17:30（希望者のみ）

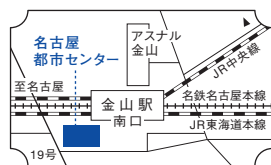
会場 | 名古屋都市センター 11階ホール

定員 | 100名 先着順 ◎要申込み（申込期間 2019.1/11-2/7）

名古屋都市センター
Nagoya Urban Institute

〒460-0023 愛知県名古屋市中区
金山町一丁目1番1号 金山南ビル内

アクセス：JR・名鉄・地下鉄「金山」駅南口すぐ



スピーカー：

アンドレア・ボッコ

Andrea Bocco

トリノ工科大学



建築家、トリノ工科大学建築学科建築技術専攻准教授。1966年生まれ。建築家ではあるが、むしろ社会運動家、そして批評家として活躍する。大学院生だった1994年より、地域生活の再生に関わる問題に取り組み、トリノ市のサンサルバリオ地区に「地区の家」を開設計、長年ディレクターを務めた。その後、同市北部のバリエーラ・ディ・ミラノ地区に新しい地区の家と言える「ラボラトリ・ディ・バリエーラ」を民設民営で創設。最近では、日本の先端技術を用いない（low-tech）建築と地域の持続的発展に関心を持ち、2016年には約1ヶ月間、日本各地での調査と関係者との意見交換を行った。著書に『Bernard Rudofsky』（Springer Vienna Architecture, 2003年）、「石造りのように柔軟な」（ジャンフランコ・カヴァリア共著、多木陽介訳、鹿島出版会、2015年）など。

多木陽介

Yosuke Taki

演出家・批評家



演出家、アーティスト、批評家。1962年生まれ。1988年に渡伊、ローマ在住。演劇活動や写真を中心とした展覧会を各地で催す経験を経て、現在は多様な次元の環境（自然環境、社会環境、個人の精神環境）においてエコロジーを進める人々を扱った研究を展開。芸術活動、文化的主題の展覧会のキュレーションおよびデザイン、講演、そして批評と多様な方法で、生命をすべての中心においた人間の活動の哲学を探究する。著書に『アキレ・カスティリオーニ——自由の探求としてのデザイン』（アックス、2007年）、「（不）可視の監獄——サミュエル・ベケットの芸術と歴史」（水声社、2016年）など。

モデレーター：

小松 尚

Hisashi Komatsu

名古屋大学院
環境学研究科



名古屋大学院環境学研究科准教授。博士（工学）。一級建築士。1966年生まれ。1992年名古屋大学院工学研究科建築学専攻前期課程修了。2006年から現職。専門は建築計画。著書（共著、分担執筆）に『「地区の家」と「屋根のある広場」』（小篠隆生共著、鹿島出版会、2018年）、「Towards the Implementation of the New Urban Agenda」（Springer, 2017）、「まちの居場所」（東洋書店、2010年）、「地域と大学の共創まちづくり」（学芸出版社、2008年）など。市民協働による公共建築計画・運営への指導、助言として、いなべ市石橋小学校（2002年～：公共建築賞優秀賞）、亀山市川崎小学校（2012年～）、松阪市鎌田中学校（2015年～）など。



お申込み・詳細 | <http://www.creative-nagoya.jp>

※トークのみ参加・トーク＋ワークショップ参加をお選びください。
ワークショップのみの参加はできませんのでご注意ください。

お問い合わせ：

ユネスコ・デザイン都市なごや推進事業実行委員会

460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1-1

Email: info@creative-nagoya.jp TEL: 052-972-3172 FAX: 052-972-4128

URL: www.creative-nagoya.jp



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



Torino
City of Design



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization



City of design NAGOYA
Member of the UNESCO
Creative Cities Network
since 2008